

ウガンダの子どものため 活動車両を買い替えたい(上)

河辺智美・金子麻美・小谷美紀

ウガンダ支援の はじめ

私たちはNPO法人
安房文化遺産フォーラム
の中で活動している
、安房南高校の卒業
生を中心としたウガン
ダ支援「ひかりの」と
いうグループです。

皆さんは安房の高校
生が取り組んできたア
フリカ・ウガンダへの
支援活動と、その後の
経過をご存じですか。

ウガンダへの支援活
動は1994年、安房
南高校の生徒たちに
よって、内戦やエイズ
の蔓延(まんえん)で
両親を失ったたくさん
の孤児たちからの
「学びたい」という呼
びかけに応じて、数人
の有志から始まった活

動です。

きっかけは館山市内
の「かにた婦人の村」
の深津文雄牧師からウ
ガンダのセンパラさん
を紹介されたからで
す。最初はささやかな
活動でしたが、学校全
体に呼びかけられ、生
徒会活動となって、そ
のため組織であるホ
ランティア委員会がつ
くられました。

先生や保護者、同窓
会の方々ははじめ地域
の方など皆さまの温か
いご支援の協力をいた
だきながら、安房南高
校統廃合の2008年
まで続けました。その
後は、統合された安房
高校の有志に引き継が
れ、とくにJRC部の
皆さんが取組んでいま
した。そして現在はい

安房西高校のJRC部
の皆さんにバトンタッ
チされ、安房地域の高
校生の皆さんによって
23年にわたって続けら
れてきた国際交流活動
です。

その間、当時の安房
南高校社会科教師でホ
ランティア委員会顧問
であった愛沢伸雄氏
が、ウガンダとの窓口
を担っていたとき、高
校生による支援活動を
23年間サポートし続け
てきました。今は教員
を退職され、NPO法
人安房文化遺産フォー
ラム代表として、十数
年、安房地域の歴史や
文化を生かしたまちづ

ウガンダにつくられた 安房南洋裁学校

当初より現地の孤児
支援の窓口は、子ども
たちの教育・生活支援
をするウガンダ意識向
上協会(CUFI)の
センパラ氏でした。ア
ジア学院で農業指導者
の研修生として来日さ
れたときに、かにた村
にきたことが縁とな
り、安房南高に2回来

くり活動に関わり、と
くに市民活動の立場か
ら高校生によるウガン
ダ支援活動を応援して
きました(安房文化遺産
産フォーラムのHP参
照)。

校し、直接、生徒たち
の前で孤児たちの支援
を訴えられました。目
に見える形で交流と支
援が続きましたので、
センパラ氏の名前を懐
かしく思われる卒業生
は地域に3000人近
くいらっしやると思っ
ます。

子どもたちの 笑顔があふれて

安房南高校生をほじ
め安房高や安房西高J
RC部による毎年のウ
ガンダバザーでの収益
金、チャリティー募金
安房文化遺産フォーラ
ムに寄せられた寄付な
どから10〜20万円の支
援金や中古衣料、文房
具等を送ってきまし
た。

その中で象徴的なこ
とは、建物の正面に安
房南高校章が付けられ
た「安房南洋裁学校」
という職業訓練所が設
立されたことです。安
房南高家政科で使用さ
れたミシンを送り、ウ
ガンダの孤児たちの職
業自立のための学校と
して大変喜ばれていま
す。しかし、現在まで
運営の資金が不足がち
でセンパラ氏もご苦労
されています。

年間という時の流れの
なかで、地道な支援が
少しずつ実って生きて
きたようにも感じられ
ます。

安房地域でもウガン
ダ支援の輪が広がり、
とくに安房・平和のた
めの美術展実行委員会
の皆さんが12年前から
子どもたちの絵の展示
やチャリティー収益金
から支援金をいただき
ました。子どもの絵も
美術展開催の案内はが
きやポスターに採用し
てくれたことは忘れる
ことができません。今
年も安房・平和のため
の美術展は27日まで、
南房総市の杣柙倶楽部
ギャラリーで開催され
ています。子どもたち
が描いた絵なども展示
していますので、ぜひ
ご来場ください。

支援当初に届いた千
ノクワの絵を見ると、
血なまぐさい戦場の姿
であり、戦闘機からの
攻撃や兵士が戦ってい
る絵でしたが、この23
年間で象徴的なこと
とは、建物の正面に安
房南高校章が付けられ
た「安房南洋裁学校」
という職業訓練所が設
立されたことです。安
房南高家政科で使用さ
れたミシンを送り、ウ
ガンダの孤児たちの職
業自立のための学校と
して大変喜ばれていま
す。しかし、現在まで
運営の資金が不足がち
でセンパラ氏もご苦労
されています。



安房・平和のための美術展のポスター

(つづく) NPO 安
房文化遺産フォー
ム ウガンダ支援グル
ープ「ひかりの」共同代表

ウガンダの子どものため 活動車両を買い替えた(下)

河辺智美・金子麻美・小谷美紀

支援の輪が広がって

安房南高校の生徒たちから始まったウガンダ支援活動は、今年で23年目となったものの、その間に安房南高校が統廃合になり、安房高校や安房西高校のJRC部に引き継がれていく経緯には、とても困難な状況がたびたびありました。しかし、強い思いをもって地道に継続してきました。

廣氏が製作したブロンズ彫刻「安房南高校生徒像」を、友情の証しとしてウガンダへ贈りました。

長年支援・交流を続けて来られたのは、各校の先生や保護者の方々をはじめ、かいた婦人の村、安房・平和のための美術展実行委員会、同窓芳誼会(安房南高校同窓会)、館山ロータリークラブ、スーパーおどや、イオン、館山病院、館山信用金庫など、数多くの市民団体や企業が高校生活動を支えていた。今日まで見守ってきてくださったからでした。

ウガンダでの緊急事態

ウガンダ現地の活動も順調のように思えた矢先、センパラ氏より一通のメールが届きました。それは、現在の活動拠点で子どもたちの送迎用などに使用している自動車が故障してしまいとても困っているという緊急の内容でした。

ウガンダ国内での活動には、どうしても自動車が必要であり、中古車の購入資金をサ



安房南生徒像を囲む子どもたち

ポートしてもらえないかというお願いでした。その資金額は120万円という大金です。私たちにとっても、例年支援バザーに力を入れていますが、今の活動ではあまりにも高額であり、すぐに準備することは当然無理です。私たちがこの間に、センパラ氏とやり取りをし、現地の支援活動を見て緊急事態と判断しました。

「ひかりの」のウガンダ支援活動に対して資金面でご支援ご協力をお願いできないでしょうか。一人一人の力を束ねて大きな力にし、センパラ氏に自動車購入資金を届けたいと思っております。

購入資金をクラウドファンディングで

そこで今月21日から約2か月間にわたって「Ready for

という団体のクラウドファンディングの力を借りて、インターネットやフェイスブック上で呼び掛けて、全国の皆さんから資金を募っていく活動を実施することにしました。とくに安房地域の皆さんのお力をお借りしたいと願っています。ウガンダの孤児たちに学びの場をつくる活

動しているセンパラ氏たちの熱い思いを地球市民の1人としてサポートしていきたいと思っております。何よりも国境を越えて子どもたちの学びを支えていくことで、私達も国際平和に貢献するのではないでしょう

私たちの思いと
一歩を踏み出す活動

私たちは、ウガンダの子どもたちの支援と交流をこれからもずっと続けていきたいと考えています。当然、資金面や活動面での術がとても重要ですので、皆さんのお力をお借りして、この支援の輪を広げていきたいと思っております。また、ウガンダ支援グループ「ひかりの」では、現役の高校生や

卒業生、そして地域の若者たちの核になるためにも、息の長い国際支援・交流活動を進めていく話し合いやボランティアの場をつくっていきたく願っています。

決して「私には何もできない」のではない、一人一人が願っていること、そのことの一歩を踏み出すかどうかにあると思えます。そのような機会が身近にあればできるはず。皆さんのご理解とご協力を願うとともに、参加される皆さんのご連絡をお待ちしております。Eメールは usandahikarino@gmail.com (おわり、NPO安房文化遺産フォーラム・ウガンダ支援グループ「ひかりの」共同代表)